

西脇市消費生活センター

☎22-3111 (防災安全課内)

No.152

架空請求には連絡しないで無視しましょう

【事例】

「弊社は運営会社 A から依頼を受け、料金滞納者さまの調査を行っています。無料期間中に退会処理がとられていないため、登録状態のまま放置が続いています。そのまま放置すると法的処置を行います。身辺調査の開始・法的処置への移行の前に、詳細の確認や和解の相談を希望する方はご連絡ください」という内容のメールやはがきが突然届いた。

* * *

何らかの情報を基に、はがき・手紙・電子メールなどで一方的に有料情報利用料の請求書や督促状を送りつける手口が後を絶ちません。それらには「訴訟最終通達書」など、法律文書のような語句を使い、請求金額や利用明細が記載されていません。不安をあおり緊急に思わせ、電話をかけさせようとする悪質な手口です。うかつに連絡するとさらに個人情報を知られ、同様の請求が次々と来るようになります。身に覚えがなければ、相手に絶対に連絡せず、支払わないようにしましょう。



おもてなしコラム 25

西脇市では、「日本のへそ西脇地域食材でおもてなし条例」を施行。豊饒の地で生産された地域食材や地場産業などの魅力に認識を深め、郷土に誇りと愛着を持って来訪者をもてなすことで、本市のさらなるにぎわいの創出を目指しています。

■問合せ 農林振興課 (市役所内線 322)



おいしそうなタマネギがたくさん収穫されました。

タマネギパワーで健康生活

今が旬のタマネギは新陳代謝を活発にし、血糖値やコレステロール値を下げる効果があるといわれています。また、神経鎮静作用によりストレス解消効果もあるといわれていることから、現代の慢性疾患を改善する食材として注目されています。

新タマネギは薄切りにして生で食べてもおいしいですが、辛みを取るために水にさらしたり、塩もみしたりすると、栄養成分が水に溶け出してしまいます。栄養を逃がさず調理するには、加熱するのが良いため、汁も残さず食べることができるカレーやオニオンスープなどのレシピがおすすめです。

市内で栽培される農作物は、酒米の山田錦をはじめ稲作が中心です。稲刈りが終わる11月に作付けし、田植えが始まる5月ごろに収穫時期を迎えるタマネギは、比較的栽培しやすく、稲作と合わせて栽培に取り組むことで農家所得を向上させる作物として農協が奨励しています。

健康増進効果があり、レシピも豊富な万能野菜のタマネギ。あなたの田畑でも栽培してみませんか？



▲小中学校の先生たちが英語力アップ研修中 (2月)

☆児童生徒の英語力アップを目指して
 ①英語検定受験料年1回助成
 ▼対象 中学1〜3年生(希望者)
 ②GTEC(英語コミュニケーション力調査)実施
 ▼対象 小学6年生・中学1

☆先生の指導力向上を目指して
 授業研究や指導方法の研修と合わせて、「先生のためのブラッシュアップ研修会」を実施しています。主に小学校の先生が集まり、授業力・英語力アップに向けて研修を重ねています。昨年度は先進校視察や、小学校教諭と中学校英語科教諭の合同で研修を実施してスキルアップを図り、子どもたちにどう「使える英語」を身に付けさせるかについて話し合いました。

5月5日はこどもの日です。国民の祝日に関する法律には「こどもの人格を重んじ、こどもの幸福をはかるとともに、母に感謝する」日と定められています。

「こどもの幸福」について考えるとき、私が教員としてこれまで多くの子どもたちに関わってきたことのひとつが思い出されます。私の身近には多様な子どもたちがいました。

▽朝ごはんを食べずに、おなかをすかせて登校する子
 ▼親の過大な期待に応えることに必死になっている子
 ▼家庭の事情で自分の夢を諦めている子
 学校にはさまざまな子どもたちが通っています。それぞれに素直に学校生活を送ることができない理由があり、そのような子どもを前に思い悩んだことも多々ありました。

「自分なんかいなくなっても誰も悲しまへん」。ある生徒が発した言葉に大きなショックを覚えたことがあります。こんな思いを抱えながら、毎日を過ごしている生徒にどんな

言葉を掛けたいのか分かりませんでした。ただただ、この生徒に寄り添って、思いを聞いていくと、少しずつ夢を語ってくれるようになりました。

それぞれの子どもたちとの関わりの中で、どの子にも当てはまる共通点が見えてきました。それは「夢を語れるかどうかが大切だ」ということです。子どもたちが自分の将来を見据えて進路を切り開いていくために、将来の展望を持ち努力できる力を育てることが大事だと思います。子どもたち自身が、自分の将来について考え、夢に向かって今をどう生きようとしているか。この視点に立って、目の前の子どもたちとじっくり向き合っていくことの大切さに気がきました。そして、このことが「生きる力」の原点になるのだと感じました。(人権教育課)

好きです!! にしわきわたしのふるさと

今、この時を輝いて生きる
 一次世代につなぐ、心豊かな人づくり、まちづくり—

教育委員会や学校園の情報をお知らせします。

学校における英語教育充実の取り組み

—世界へとつながる人材育成を目指して—

西脇市では昨年度に引き続き「にしわき学力向上事業」を充実させ、グローバル化が進む社会を生き抜く子どもたちの育成を目指します。特に英語教育においては、平成32年度から小学校で始まる英語の教科化を見据え、主に次のような準備を進めています。

☆「使える英語」を身に付けよう!

【小学校にA・L・T(外国語指導助手)を配置】

子どもたちはA・L・Tを通して異文化に触れ、新しい言葉に出合います。また、普段の学校生活の中でA・L・Tと交流することで、「英語でなんとか伝えたい」という気持ちが高まり、英語の表現力が高まります。英語を実践する機会があることで、コミュニケーション手段としての「使える英語」を身に付けていきます。

☆先生の指導力向上を目指して

2年生(全員)

検定や調査を実施することで、英語で何ができるかを確認し、英語学習の意欲をさらに高めていきます。

心のスケッチ

110

人権教育課コラム

「こどもの日」に思う

言葉は掛けたいのか分かりませんでした。ただただ、この生徒に寄り添って、思いを聞いていくと、少しずつ夢を語ってくれるようになりました。

子どもの可能性を信じ、思いに寄り添いながら関わりを続けていくと、誰もが心の奥底では自分の幸せを願っていることに気が付きました。

それぞれの子どもたちとの関わりの中で、どの子にも当てはまる共通点が見えてきました。それは「夢を語れるかどうかが大切だ」ということです。子どもたちが自分の将来を見据えて進路を切り開いていくために、将来の展望を持ち努力できる力を育てることが大事だと思います。子どもたち自身が、自分の将来について考え、夢に向かって今をどう生きようとしているか。この視点に立って、目の前の子どもたちとじっくり向き合っていくことの大切さに気がきました。そして、このことが「生きる力」の原点になるのだと感じました。(人権教育課)

市長からの手紙

西脇を元気に!!

52



西脇市長 片山象三

未来を担う西脇の子どもたちの夢を応援

今年度は桜丘小学校と西脇南中学校の入学式に参列しました。新1年生たちは、緊張の中にもこれからの学校生活に期待を膨らませている様子が印象的でした。

本市では2年後の学習指導要領の改定を見据え、今春から小学3年生以上を対象に外国語授業を行います。そして県下で初めて「市内全ての小・中学校での英語コミュニケーション力調査(GTEC)実施」や外国語指導助手の増員



GTECでは英語4技能(読む・聞く・話す・書く)を調査

をします。本市は大正年間から織物や釣り針の輸出が盛んで、世界とつながっていました。ローカルでもグローバルにも通用する若者が育つ環境が必要だと思います。

本市出身の梶村尚選手が先月、競泳日本選手権の男子200メートルバタフライで、先の五輪で活躍した瀬戸大也選手を抑えて優勝。アジア大会の日本代表選手に選ばれました。全日本選抜体重別柔道では、本市出身の藤原崇太郎選手が準優勝を飾り、世界選手権の代表選手に。共に芳田小学校の同級生であった二人の活躍は、私たち西脇市民の誇りです。未来を担う子どもたちには、彼らのように夢や目標を持ち、突き進んでほしいと思います。そして、二人の東京五輪出場に向けて応援していきましょう。

このまちに住んでいることを誇れる「西脇市」をともに創っていきましょう。